

・ 調査の概要

調査名	京浜港における国際海上コンテナの陸上輸送実態把握調査
キーワード	国際海上コンテナ陸上、荷主先、出発時刻・到着時刻、利用経路
調査地域	京浜港背後地域（関東地域）
調査期間	平成 17 年 12 月 12 日～平成 17 年 12 月 25 日（計 14 日間）
調査人数	15 名（15 台）
調査主体	京浜港コンテナ輸送効率化検討委員会（事務局：国土交通省関東地方整備局他）
調査の特徴 ・ PP 利用の効果など	国際海上コンテナの陸上輸送状況について、出発地や到着地および時間帯、輸送経路など詳細な情報を把握することができた。 京浜港背後の海上コンテナ陸上輸送状況を詳細に把握できたことで、輸送効率化に向けた適切な提言ができた。

### 背景と目的

国際海上コンテナ輸送は 1950 年代にアメリカ人の Malcolm Maclean により推進され、現在、国際貿易を支える輸送手段となっている。近年、中国を中心とする東アジアの国際海上コンテナ輸送に占める割合は著しく増加している。

それに対し我が国の国際海上コンテナの輸送状況は年々増加傾向にあるが、世界全体の伸びと比較すると小さく、国際競争力の低下が危惧されている。海上コンテナ輸送の国際競争力確保には、港湾整備や制度改革とともに海上コンテナの陸上輸送における実態を把握した上で、陸上輸送の効率化を図ることが必要不可欠である。

従来、我が国の海上コンテナ貨物の動向は既存資料により把握可能であるが、輸送経路や出発・到着時刻など具体的な輸送状況は不明である。そこで、京浜港を中心に海上コンテナの陸上輸送状況の詳細を把握するために、海上コンテナ車両に GPS 端末を搭載したプローブパーソン調査を実施した。

### 調査手法とシステム

#### GPS端末を活用したトラッキング調査

GPS携帯電話をトラックに搭載し、位置情報を取得  
位置情報取得方法

内陸部の荷主先（生産地・消費地）の方面、到着時刻や荷主先での待機状況を把握

出発地・出発時刻の把握、コンテナターミナル周辺の混雑状況を把握

港湾（コンテナターミナル）と内陸部間の輸送経路や混雑状況などを把握

トラック調査と運行管理表を組み合わせることで...

#### 運行管理表

出発地		目的地		貨物の有無
日時	場所	日時	場所	

1) 実入りコンテナ搭載  
2) 空コンテナ搭載

3) シャーシのみ  
4) ヘッドのみ

**海上コンテナ車両の陸上輸送の実態把握可能**

